

木漏れ陽

7月

平成28年7月1日 第41号
発行佐賀市教育研究所
発行責任者 所長 中村祐二郎

「教師力」という名のリーダーシップ「支援と指導のバランス力」

これからの教師に求められるもののひとつとして「支援と指導のバランス力」が挙げられます。

教師力には、「支援」だけでなく、子どもたちには「指導」も必要です。適切で具体的な指導もまた、子どもに気づきをもたらせることができます。指導とは、子どもを支配するのではなく、成長への資源を与えることです。これは、子どもの生きる力を育む点においても極めて重要なことです。

指導するときに大切なことは、「伝えたいことが本当に心まで届いているか」ということに尽きます。「伝えたら終わり」ではなく、伝えたことをどう受け止めているかまでしっかりと確認しているでしょうか？

次に、そのポイントを挙げてみましょう。

- ・その理由や目的が伝わっているか？
- ・成功イメージを描かせているか？
- ・実行するモチベーションを引き出させているか？
- ・実行する決意（意志）を引き出させているか？
- ・先生の想いや子どもへの期待を伝えているか？
- ・タイミングはいいか？
- ・何が伝わり、何が伝わっていないか？
- ・何を受け止め、学んだか？ どう受け止めて感じているか？



ただやみくもに命令したり、転ばぬように先回りして手助けしたりすることと、「指導・支援」は全く異なるものです。

適切に教えて基本を身に付けさせる「指導（ティーチング）」、子ども自身に考えさせ、行動させ、検証させ、自立主体性を創っていく「支援（コーチング）」、この二つはどちらも必要です。

しかも、子どもは一人一人性格や成長度合い、状況に違いがあり、また変化もします。それらをキャッチし相手に合ったアプローチを創り出す「教師力＝これからのリーダーシップ」がますます求められるでしょう。「支援と指導のバランス力」もその中の一つといえるでしょう。

（「教師力アップのためのコーチング入門—子どもを伸ばすコツと会話術—」河北隆子著、明治図書）より
～．．．．．

授業においては、「とにかく基礎基本が大切だ。」と、教師主導の授業を行い、ドリル学習やテストのやり直しを徹底的に行おうとする教師。「子ども主体の学習にしなければいけない。」と、どの授業も子どもに任せて話し合いや教え合いに終始している教師。生徒指導においては、教師の考え通りに進めようと、一から十まで指導（命令？）し、その通りに行わないと厳しく注意する教師。「子どもには任せられない。安心できない。」と、何でも口出し、手出ししてしまう教師。

どの場合も、「子どものため」と思っていることかもしれませんが、本当に子どもの成長につながっているのでしょうか。子どもたちの状況は年々変化していますし、保護者の考え方も多種多様です。また、発達障がいの子どものも増えており、一人一人に応じた指導・支援のあり方は、ますます重要になっています。しかし、先生方の中には、指導だけ、支援だけを続けてしまう人や、子どもの実態を考えず自分の考えを通してしまっている人がいるのではないのでしょうか。

上記のポイントを十分に考え、「支援と指導のバランス（『支援』が先になっていることがポイント）」を取ることが必要でしょう。

- ①今行っている支援と指導は何のために行い、そのことが子どもや保護者に伝わっているか。
- ②成功するイメージを持たせるとともに、学習・活動の意欲を喚起させる手だてを取っているか。
- ③学習・活動の意志を引き出すために、見通しを持たせているか。
- ④担任や指導者としての想いや期待を、子どもや保護者に分かりやすく伝えているか。
- ⑤子ども一人一人の状況（考えや課題）に応じ必要なタイミングで支援や指導を行っているか。
- ⑥学習・活動の過程や結果を評価し、その結果を支援・指導に生かしているか。評価や、その後の支援・指導の方向性を子どもに伝えているか。

現在、若手の教師が増えていますが、中には、自分が経験した学習・活動のやり方を通そうとする人もいるかもしれません。ぜひ、「支援と指導のバランス」について学んでほしいと思います。

平成28年度教育研究所がスタートしました。

平成28年度佐賀市教育研究所の顧問及び所員の先生方が決まり、5月16日(月)に第1回合同教育研究所委員会が開催されました。いよいよ平成28年度の研究が始まります。佐賀市教育研究所は、昭和28年に立ち上げられました。佐賀市の教育の向上を目指して、研究したことを広めるべく脈々と続いています。今年度のメンバーは、各部2人の顧問の先生と課題研究部10人、児童生徒理解部12人の所員の先生方です。今後それぞれに分かれて研究に取り組み、平成28年1月19日(木)(期日は予定)に佐賀市教育研究発表会で研究の成果を発表する予定です。なお、昨年度の取り組みについては、各学校へ研究紀要(CD-ROM)をお送りしていますので、ぜひご覧ください。(研究所員会担当 大久保美奈子)

課題研究部				児童生徒理解部			
体育の楽しさを求めて主体的に取り組んだり、自らの健康・体力向上に向かったりする児童・生徒の育成				児童生徒の社会性を育む集団づくり			
	所属校	職名	氏名		所属校	職名	氏名
顧問	諸富北 小学校	校長	原口憲明	顧問	北山東部小学校	校長	宮山 建
〃	鍋 島 小学校	養護主幹	坂井規子	〃	松 梅 中学校	校長	藤瀬秀隆
所員	勸 興 小学校	教諭	大串郁子	所員	赤 松 小学校	教諭	片渕綾子
〃	高木瀬 小学校	教諭	戸高俊彦	〃	高木瀬 小学校	教諭	松田洋子
〃	新 栄 小学校	教諭	田中 孝	〃	北川副 小学校	教諭	古賀貴美子
〃	東与賀 小学校	教諭	高木勝己	〃	新 栄 小学校	教諭	前島 仁
〃	赤 松 小学校	養護教諭	藤本亮子	〃	若 楠 小学校	教諭	陶山有加里
〃	成 章 中学校	教諭	森千恵子	〃	春日北 小学校	教諭	古賀美奈子
〃	城 南 中学校	教諭	笹谷利和	〃	成 章 中学校	教諭	江副留美子
〃	城 西 中学校	教諭	岩本由紀	〃	城 南 中学校	教諭	矢動丸竜真
〃	城 北 中学校	教諭	古川浩之	〃	昭 栄 中学校	教諭	片渕健太郎
〃	思 斉 中学校	養護教諭	立川真由美	〃	諸 富 中学校	教諭	林ゆかり
				〃	大 和 中学校	教諭	岡山慎司
				〃	思 斉 中学校	教諭	前田良紀

学校教育課 教育相談係 古賀正道

佐賀市教育委員会教育研究所【児童生徒理解部】では昨年度から**自己有用感**について研究をしています。**自己有用感**とは、「他人の役に立った、他人に喜んでもらった、…等、相手の存在なしには生まれてこない点で自尊感情、自己肯定感等の語とは異なります。他者からの評価やまなごしを強く感じた上でなされるというのがポイントです。」(国立教育政策研究所 生徒指導リーフレット18より)

他者からの評価をされるということから社会性を育てる基礎になるのではないかとわれています。ほめて育てるより**認められて育つ**という発想のほうが子供の**自信は持続する**のではないかとことです。

研究所員の先生方がそれぞれの学校で以下のような手立てを試みました。

- ① 学習の過程で、**小集団活動**を取り入れ、他者との関わりの場を設定する。
- ② 活動後、ワークシートやメッセージカードへ**自己評価**や**他者評価**を記述させる。
- ③ その都度、**教師からの言葉かけ**(賞賛・感謝・価値付け・信頼・期待など)を行う。
- ④ 学習のふり返りの場面で、相手への賞賛だけでなく、自己の意欲向上や新たな目標の設定など、心の変容部分まで記述して伝えられるようにワークシート等を工夫する。
- ⑤ メッセージカードなどは、いつでも見ることができるように掲示する。
- ⑥ 友だち同士で承認し合えた回数や量を、シールやビー玉などに置き換えて、**増え具合を視覚化**できるように工夫する。



その結果以下のような知見が得られました。

子供たちは、「**クラスに自分の居場所がある。居心地がよい。**」「**〇〇さんのおかげで、～。私も、・・・したい。**」と感じたり、「**これからがんばろう**」などの**意欲の向上**や、**貢献活動へのモチベーション**を高めたりしている。

今年度も研究所員の先生方の研究がさらに進むように微力ながら支えていきたいと思ひます。